

コーディネーターだより

令和7年3月17日 No.5

東京都立府中けやきの森学園校長 相賀 直
特別支援教育コーディネーター

音楽の授業である先生が、「あなたの好きな春の歌は？」と尋ねたところ、一人の生徒が Mrs.GREEN APPLE の「春愁」という曲を教えてくださいました。「明日が晴れるならそれでいいや、明日が来るのならそれでいいや、あなたが笑うならなんでもいいや、世界は変わりゆくけどそれだけでいいや」という歌詞に、変わりゆく景色の中で、勇気をもらえる曲だそうです。進級や進学に向けて、期待や緊張の「ドキドキ」を感じている児童・生徒の様子が、学校生活の様々な場面で見られます。それぞれが、これまで身に付けてきた力を自信に変えて、新たな季節を迎えてほしいと思います。さて、今年度最後のコーディネーターだよりでは交流および共同学習について御報告します。

【報告】令和6年度 交流および共同学習「学校間交流」の取り組みについて

今年度も各学部、学年が様々な交流活動を実施しました。

交流校・交流学部	交流形態	交流内容
白糸台小学校 A 部門小学部	直接交流	・自己紹介、箱運びゲーム、ダンス (1年) ・じゃんけん列車、ダンス発表 (2年) ・ターゲットポッチャ (3年) ・ボール運びリレー (4年) ・風船バレー、インクルーシブ『ソーラン節』 (5年) ・インタビューゲーム、フォークダンス (ジエンカ) (6年)
府中第四小学校 B 部門小学部	直接交流	・ダンスの発表、パラバレーン (2、3年) ・とおりゃんせゲーム、歌やダンスの発表、マイムマイム (高学年)
府中第二中学校 A 部門中学部	直接交流	・クリアファイルの共同制作、自己紹介、ポッチャ
府中第二中学校 B 部門中学部	直接交流	・自己紹介、ボール運びリレー、合唱、歌や演奏の発表
都立府中東高等学校 A 部門高等部	直接交流	・生徒会による交流会の計画 ・交流会：ポッチャ、以心伝心ゲームを、ビーズキーホルダー作り、記念品 (クリアファイル) 贈呈

2月18日には、交流教育連絡会を開催し、府中市教育委員会、交流校の先生方、各学校のPTAの皆様をお迎えして今年度の交流活動について報告しました。交流校の先生方からは、「お互いが顔を合わせることで距離が縮まった。」「生徒が交流を楽しみにしている。もう少し幅を広げて多くの人が交流できるようにしていきたい。」「交流の内容をよりブラッシュアップしていきたい。」といった感想が寄せられました。

また、PTAの方々からは、「交流の様子を見学できてよかった。子供たちは、はじめは距離があったが、徐々に相手の目線になって話していて良いなと思いました。」「けやきの森学園のことを、より多くの保護者に知ってもらいたいと感じた。」「子供のいる世界を見て学びになりました。共に歩んでいくことが非常に大切であると改めて感じました。」といった感想をいただきました。

交流および共同学習【学校間交流】

【交流報告】A部門中学部★府中市立府中第二中学校

府中第二中学校との交流では、ボッチャの交流だけではなく、共同制作も行っています。6月に府中二中考案のデザイン画を受け取り、それを基に本校中学部の生徒が作業学習で「クリアファイル製作」に取り組みました。クリアファイルの表側は府中二中考案のデザインを使用し、裏側には本校生徒が視線入力で描いた絵と、「only one design clear file in the world!」と入力した文字を配置したデザインを使用しました。作業学習では8つの工程を役割分担し、協力して製品を作りました。実用的な物に仕上げて検品に合格するまで、本校の生徒達は根気強く取り組みました。2月の交流会で「一生懸命作ったので使ってください」とプレゼントとして手渡すと、府中二中の生徒はとても喜んでおり、お互いに嬉しい瞬間になりました。



交流および共同学習【副籍交流】

【交流報告】A部門中学部1年★府中市立府中第四中学校

府中第四中学校の1年生全員と交流をしました。府中四中の生徒はパラスポーツやボッチャについて事前に学習した上で交流日を迎えました。体育係の生徒の協力で6コートを設定し、盛大なボッチャ大会となりました。本校生徒はランプを使用して投球し、チームに貢献していました。審判も生徒同士が行いました。本校生徒が得点計算の方法を友達に伝える姿もありました。何試合かするうちに、府中四中の生徒はルールをより理解できるようになっていました。府中四中の生徒からの感想では、力加減の難しさが多く挙がりました。本校の生徒は「ボッチャの難しいところも、楽しいところも知ってもらう機会になって良かったです」と伝え、試合後にお互いの健闘をたたえ合っていました。



【交流報告】B部門小学部3年★府中市立南白糸台小学校

理科の授業で交流をしました。磁石を使った実験で、身のまわりにある物が磁石にくっつくのか、くっつかないのかを確かめました。実験の時間には、机を合わせてグループになりました。本校の児童が興味津々な様子で磁石を触っていると、南白糸台小学校の友達に「これやってみてー。」と言葉を掛けられ、手渡された缶やはさみに磁石を押し当ててくっつくかどうかを確かめました。その後も、「その缶、かして。」「ガラスはあそこだよ。」などとグループの友達とやり取りをしながら実験を進めていきました。

